

大使着任のご挨拶

1月9日に駐バチカン大使として着任致しました千葉明（ちば あきら）です。26日に教皇フランシスコ台下に信任状を捧呈し、駐バチカン大使としての公務を正式に開始しました。

日本は1942年にバチカンとの間で外交関係を樹立しました。しかし、両者の関係は、400年以上前、フランシスコ・ザビエルが布教のため来日した1549年に遡ります。1585年には、日本人として初めて、天正少年使節が当時の教皇グレゴリウス13世に謁見しました。その30年後には、支倉常長が教皇パウロ5世に謁見しましたが、折しも徳川幕府が禁教政策を取ったため、交流は一旦途絶えます。ところが長崎開港後の1865年、それまで250年以上もの間、ひっそりと信仰を守り続けた潜伏キリシタンと言われる方々が竣工間もない大浦天主堂に現れ、「信徒発見」として大きな感動をもってバチカンに伝えられました。

近年においては、度重なる要人往来にも見られるとおり、両国の間では緊密な関係を構築して参りました。

2019年11月、教皇フランシスコはローマ教皇として38年ぶりに日本を訪問されました。訪日の際に教皇は、長崎と広島から、核兵器のない世界に向けた強いメッセージを寄せられた他、東日本大震災被災者を励まされました。

昨年5月には、岸田首相がバチカンを訪問、教皇謁見及び首脳会談が実施されました。

日本とバチカンは、平和、「核兵器のない世界」の実現、貧困撲滅、人権、環境問題等を共通の課題として掲げるパートナーです。大使として、日本バチカン間の良好な協力関係をより一層強化し、共通の目的実現へ向け更なる発展に尽力する所存です。

両国の間においては、民間レベルでも交流がさかんです。バチカン図書館や文書館に関しては、調査研究活動においてさまざまな形での協力が行われており、蔵書のデジタルアーカイブ化等にも日本の企業が携わっております。またバチカンは、日本の方々のヨーロッパ観光の目玉として、不動の地位を築いています。

バチカンが代表する世界におけるあらゆるレベルで、日本に対する理解を深めるよう尽力すると同時に、バチカンという国について、日本の方々によく知っていただくことが、駐バチカン日本大使としての役割と考えます。さまざまな文化交流や発信の場において、皆様のお力添えをいただければ幸いです。

どうぞ宜しくお願い致します。

令和5年1月26日
駐バチカン日本国特命全権大使
千葉 明